

6 パイロット事業の実施結果

各パイロット事業の進捗状況と成果

(参考) 山陰観光・旅のポータルへの支援事業

(当該ホームページトップページに加筆)

目次	
(1) ポータルサイト事業	
①新規コンテンツ共同作成	・・・ 参資—29
②特派員によるコンテンツ供給	・・・ 参資—33
③施設運営者による情報更新・共有システム	・・・ 参資—37
④市民投稿システム	・・・ 参資—39
(2) 圏域内情報効率化事業	・・・ 参資—43
○ポータルサイト	
○フリーペーパー	
(3) 圏域外情報共有事業	・・・ 参資—45
(4) 講演会・交流会事業	・・・ 参資—59
(5) インターネット相談事業	・・・ 参資—63



: ポータルサイトの現況解説 (構成・内容等)
 : パイロット事業として支援する内容

(1) ポータルサイト事業 ～① 新規コンテンツ共同作成～

- 「神秘性・ミステリアス」を仮に圏域の共通テーマにしてとりあげ、多様な主体の参加による新規コンテンツの共同作成を支援した。
 - ① 「神秘性・ミステリアス」に関心のある団体等に声をかけてワークショップを開催
 - ② ポータルサイトにて、一般市民向け「あなたが感じた山陰のミステリアススポット教えてください!!」アンケートを実施

■ ワークショップの記録（平成19年2月1日 荒神谷博物館にて）

○参加団体

境港観光協会、NPO法人出雲学研究所、NPO法人大山中海観光推進機構、NPO法人まちづくりビジネス支援ネットワーク、NPO法人まつえ・まちづくり塾

○主な内容

- ・ 圏域の歴史・文化的な一体性に関する議論
- ・ 神秘・ミステリアスコンテンツのホームページ上での展開方法
- ・ 各エリアについて、具体的な神秘・ミステリアススポットの抽出

○出された意見の一例

- ・ ただ神秘・ミステリアススポットを羅列するだけでなく、神話のストーリー（因幡の白兔など）と組み合わせる示したほうが良い。
- ・ 各団体のカバーする地域や特長を活かし、材料を持ち寄るなどして役割を分担して作り上げる。



■ 新たに作成したコンテンツ（スポットごと）

HOME | ミステリアススポット > 加賀の潜戸・新潜戸(かかのくげど・しんくげど)

ミステリアス山陰・おすすめスポット

加賀の潜戸・新潜戸(かかのくげど・しんくげど)

断崖絶壁の岩肌に作り出された2つの洞穴。神の誕生地と伝わり、鬼気迫る雰囲気以身震い。

◆ミステリアス総合評価 ★★★★★

神秘性	★★★★★
歴史性	★★★★★
畏怖性	★★★★★
癒し性	★★★★★
アプローチ難易性	★★★★★

アプローチ難易度

癒し性

畏怖性

歴史性

神秘性

◆REPORT

「潜戸」とは、もともと洞窟のこと。松江市の北部、加賀という地区にある洞門で、景勝地としても穴場スポットだ。とりわけ加賀の夕景は絶景として知られ、密やかなデートスポットともなっている。また、島根半島の潜戸鼻から続く断崖入り江の海岸線は、大山隠岐国立公園に指定されるほど。

旧潜戸・新潜戸は通称で、古くに旧潜戸は「仏潜戸」、新潜戸は「神潜戸」と呼ばれていた。この呼び名からして、すでに神秘的な匂いがする。近くまで徒歩道も整備されているが、旧潜戸と新潜戸の両方を巡る観光船をぜひお薦めしたい。

新潜戸こと「神潜戸」は東・西・北と3つの入口が、はっきりと開いた広い洞穴なので観光船を乗り入れて探検できる。長年の海食によって削り上げられた自然美は社大で神々しい。船が洞穴に近づくと、それまでの好奇心が畏怖の念に変わっていく。船は「神潜戸」の西口から入る。すると、水しぶきの洗礼が……。この水にかかると洞穴から出られない、という言い伝えに船上で思わず身構えてしまう。何だかゾクゾクと感じてきた。

洞穴の中に船が潜ると鳥居が見えてくる。『出雲国風土記』には、佐太大神(松江島鹿島町の祭神)がここでお生まれになったとある。かつては加賀神社が鎮座する神域として、深く信仰されていたという。でも古代からの信仰心が浮遊しているのだから、自ずと神聖な気持ちになる。

出口となる東口でも、水がしたたり落ちてくる。この水は「乳水」と呼ばれ、母乳の出ない母親が飲むと、お乳が出るといわれる。

さて一方、旧潜戸こと「仏潜戸」。こちらは船を降りて上陸できる。仏潜戸は死んでしまった子どもの魂が集まる「霧(さい)の河原」。石が積み上げられ、子どもが愛用した着衣やほしものが供えられている。幾世代も経て風化した供え物、その上に新しく積み上げられた石。海風さらされた無数の石の塔は物悲しい。

「仏潜戸」の内部は薄暗い。鬼気迫るパワーがあり、寒気さえ感じて恐怖心が湧き上がってきた。この恐ろしさは遊園地のジェットコースターなどの比ではない。「仏潜戸」の正面に見える柱石にはキャンプ場があり、このキャンプ場では園になると子どもの声を聞くそうだ。

神潜戸は荘厳なパワー、仏潜戸はミステリアスなパワー。いずれもかなりハイレベルのエネルギー。観光船が運航しているスポットなんて、とあるどころなかな。

■ 市民から集まったミステリアススポット（平成19年1月19日～2月15日）

- 計61箇所（両県内市民27人、その他地域の市民14人が情報提供）
- （出雲・平田地区：14箇所、松江地区：15箇所、米子境港大山地区：20箇所、他：12箇所）

<投稿記事例>

華蔵寺の摩崖仏（不動明王）	出雲国神仏霊場、日本風景街道に組み込まれている華蔵寺の参道を登っていくと、左側の崖に大きな摩崖仏があります。松江城の鬼門にあたり、松江城鎮護のためにつくられたとのこと。足元に、杉井の霊水が湧出しており、大きな杉の林の中に立てられた摩崖仏（不動明王）は、大きな存在感で畏怖を感じます。
田和山遺跡	田和山に壕が見つかって、価値が有るか無いか、保存が必要だと世間を騒がしている時分に、知人と、泥まみれになりながら、上まで登ってみました。すると、ものすごく不思議なんです。茶臼山がみえ、宍道湖が見え、枕木山、など、家も立っているのに、なんだか、古代の風景が見えるような錯覚に陥りました。（ここは、なんだか、すごいで、残すべき場所だあ！）はじめ人間ギャートルズの世界に見えたのです。ぜひ、登ってみてください。不思議な感覚に包まれます。でも、今では、市民病院が立っている、茶臼山は見えないでしょうね。
多古の七つ穴	島根町多古（沖泊）からシーカヤックで30分。幾重に洞窟につながり、あたかも海の回廊のようになっていました。中央部に入るとまるで大きなホールのように天井も高く、声をあげると・・・独特な響きでゾクゾクとしてしまいました。ここはまったく観光化されていませんが、それだけにアプローチもしくく、まさに秘境といってもいいかと思えます。
夕暮れ時の宍道湖	夕日もきれいですが、毎日違う表情を見せる湖面と空、雲の色はとて神秘的で癒されます。そして、夕日の沈む先には出雲大社というロケーションは最高です。

■ トップページ

ミステリアス山陰・極めつけスポット

ミステリアス山陰とは

- ◆ 神話の国、ミステリアスなる山陰。
- ◆ 鉄の歴史に培われた、独特の精神風土。
- ◆ これからは「陰」なる国、山陰の時代。

◆ 神話の国、ミステリアスなる山陰。

●山と海と湖、豊かな樹木と水によって構成される神々の住まうところ、山陰。出土した数多くの銅剣に誰もが息を呑んだ、島根県出雲地方の荒神谷遺跡。日本最大級の弥生時代の住居群が発掘された鳥取県の大山山麓。妻木晩田(むきばんだ)遺跡。その他数多くの古代遺跡が発掘され、古代史ファンならずとも大いなる興味を喚起される山陰。出雲大社、須佐神社、神魂(かもす)神社など、日本創世記の頃からの久遠の歴史を物語る神社や仏閣。出雲国風土記をはじめとした様々な神話、伝説やいわれが至るところに語り継がれ、未だ知られざる謎が満ちあふれているここ山陰。



●日々改善されているとはいえ、交通の利便が必ずしも良いと言えないここ山陰であるだけに、全国の多くの人々には、その全体が謎に包まれた、まさに「正体不明」のエリア、ミステリアスゾーンとしてイメージされているとしてもやむを得ず、かような意味からも、ここでは敢えて「ミステリアス山陰」と銘打ち、皆様に山陰の知られざる一面をご紹介しますこととした。

◆ 鉄の歴史に培われた、独特の精神風土。

●大量の土砂が採取され、砂鉄を採取するための「かんな流し」は、約20kmにも及び弓ヶ浜半島を形成させたとする山陰の鉄の歴史。中世から明治にいたるまで、中国山地の砂鉄と豊富な木材を使って、たたら製鉄がなされ、全国製鉄生産量の大部分をまかなってきた



「神秘性・ミステリアス」
掲示板

現在リストアップされている
ミステリアススポット

出雲エリア

- 出雲大社
- 北島国造家
- 猪目洞窟
- 鱒淵寺
- 荒神谷遺跡
- 須佐神社
- 本殿裏の杉の大名
- 日御碕神社

松江エリア

- 岩坂陸基参考地
- 加賀の瀬戸・新瀬戸
- 童蔵寺の不動明王
- 月照寺の六仏
- 金屋子神社
- 六道の女去岩
- 城山稲荷神社
- 多古の七つ穴
- 美保灯台の裡にある鳥居
- 童泉比良坂

米子・大山・境港エリア

- 明智峠の雲海
- 粟島神社

関係者間で意見交換・推敲を重ねながら共同作成

■ 市民から集まったミステリアススポットの分布図（オレンジ色の点）



圏域には様々なスポットが分散。首都圏住民アンケートでは「ミステリアス＝出雲」の印象が強い。

- ・ 「神秘性・ミステリアス」を圏域イメージとして確立できる
- ・ 観光ルート・「癒し」ツアーの企画等へ

パイロット事業を通じた関係者の意見・課題等

- 圏域の共通イメージの1つとして「神秘性・ミステリアス」を取り上げ、情報を収集・整理・発信できたことで、今後の観光戦略において新たな切り口が見つけられた。
- (ワークショップ参加者)圏域の関係者が協力して1つの企画を仕上げる楽しさや効果を体験でき、別のテーマでも共同作成に取り組んでいきたい。
- 作り上げた結果、継続して市民意見を募集し、充実させていくことになった。
- 圏域関係者が協力してコンテンツ作成を行うこととしたものの、ポータルサイト運営者に相当な労力が必要となった。
- トップページの記事等、関係者が増えた分だけ調整に手間がかかるようになった。
- 他のサイト運営者より、「山陰観光 旅のポータル」の支援を実施したことに対して、事前に話し合いや合意があるべきだったとの意見。

成果

地元での取組みにより深く関連するもの

- 圏域の一体感の醸成に寄与
- 「神秘性・ミステリアス」というテーマについてはコンテンツが充実し、県境を越えた表現方法により魅力が向上
- 圏域で広く、多様な主体で議論しながら共同作業を行う楽しさ・実績ができ、今後、他のテーマでの共同作業が進み、交流・連携の活発化が期待できる

中間支援組織のあり方に関連するもの

- 一体感の醸成は当該地域で活動する多数の主体の力を結集するための重要な仕掛けであり、このような仕掛けづくりは中間支援組織が担うべき重要な役割
- 特に、複数の地方公共団体にまたがる区域で多様な主体の連携を図るためには、中間支援組織の有する人的ネットワークが効果的に機能
- ただし、多大な労力と経費が必要となることから、ある程度、中間支援組織が成熟し、活動に余裕が生じた段階から取り組むことも考えられる

今後の課題・期待される取組み (継続して検討)

- 今回のパイロット事業での実績を活かして、別のテーマでコンテンツを共同作成 (多様な主体への呼びかけ)
- 「神秘性・ミステリアス」コンテンツを活かしたバナー広告の依頼、関連サイトとの連携の依頼
- 「神秘性・ミステリアス」コンテンツを活かした観光振興事業の展開 (ドライブコース、ツアー企画、シンポジウムなど)、リピーター向けの情報の専門性の深化

